

# 特集 “まちのみんなの” コミュニティ FM

～小平 FM 放送局構想～



昨年の NPO フェスタで「小平 FM 放送局」のブースがあったのをご存知でしょうか。設立準備事務局の NPO 法人ふれあいアカデミー・早田満さんと染谷薫さんにお話を伺いました。

## ◆東日本大震災を体験し、危機管理の必要性を痛感

3年前のあの日、早田さんはバラバラにいた家族と連絡がとれず、大変心配したそうです。父親の戦時中の体験を聞かされていたこともあって、普段からの備えの大切さが身に染みていた早田さんは、「危機管理をしとかなないと！手を打たないのは人災になる」という思いに突き動かされ、ふれあいアカデミーの内部で以前から構想があった FM 放送局の話に興味を持ちました。メーカー勤務の現役専門家である染谷さんが会のメンバーにいたことも大きなきっかけでした。

## ◆ラジオへの信頼度は大きい

コミュニティ放送とは、通常の FM ラジオで聴ける周波数を使用し、市区町村単位で地域に密着した情報を提供する民間のラジオ局です。阪神淡路大震災での活躍がきっかけで広く知られるようになり、東日本大震災でも臨時災害 FM 局が数多く開設され、2013 年 12 月現在、全国に約 280 局あります。2012 年 3 月に仙台市で実施されたアンケートでは、地震直後の情報入手方法ならびに停電中の情報源の 1 位は圧倒的にラジオだったそうです（ふれあいアカデミー会報 68 号による）。

総務省も地域 FM の重要性を認めて設置を推奨しており、今まではテレビとの電波の混雑を理由に新規開局を凍結していましたが、テレビのデジタル放送への切り替えで周波数帯に余裕ができたため、この春には東京と大阪でその分の新設を認める方針を打ち出しました（2013 年 5 月 21 日付け日経新聞）。

今の世の中、果たしてどれだけの方がラジオを聴いているのだろうかと思いましたが、車のドライバーはもちろん、ラジオ世代の年配者や夜間帯の愛好者も意外に多く、また視覚障がい者や字が読みづらい高齢者などには貴重な情報源であることがわかりました。高齢者に FM ラジオを無料で配っている自治体も増えていて（群馬県太田市、新潟県三条市、秋田県横手市など）、普段は地元の FM 放送が聴けて、スイッチを切っても緊急警報を受信すると自動で ON になる機種もあるようです。

小平の周辺では FM 西東京、調布 FM、むさしの FM、FM たちかわがあり、東日本大震災の時も、町名ごとの停電計画や、実際に様子を見に行き得たガソリンスタンドの行列具合など、地域密着の媒体ならではのきめ細やかな情報を伝えたことが新聞で報道されました（2011 年 4 月 1 日付け朝日新聞「地域 FM 活動きらり」）。

直近の小平市議会だよりによると、市民に正確かつ迅速に情報を伝えるための手段として、小平市は防災無線の増設やホームページ・メルマガ・ツイッターなどの充実を掲げていますが、防災無線は情報量も少なく屋内や豪雨時は聞こえにくい上に停電時は使用できません。またケータイ・スマホ・パソコンは情報入手できる人が限られますし、地震情報等の受信はできるものの、市役所や防災本部からの情報への対応が可能な疑問が残ります。災害時に情報を届けるには、“誰にでも、どこでも、早く、正確に、停電時も、きめ細かく”が求められます。そういう意味では、コミュニティ FM は整備しておきたいインフラです。

## ◆コミュニティ FM の有用性

コミュニティ FM は普段でも次のようなメリットがあります。

- (1) 商店街の情報や街の催し等を発信
- (2) 保健所・市役所・警察等の公共情報の補完
- (3) 不審者情報や尋ね人などの見守り機能
- (4) 孤立化防止機能（病人や介護者の憩いなど）
- (5) 番組作りへの市民の参加
- (6) 市民活動やサークル活動をアピールする場

また、市内の大学と連携すれば、大学にとっては地域貢献と研究の場に、学生にとっても社会勉強や就業の場に、街にとっては若い人材を呼び込める機会になります。さらに、他の FM 局と連携したり、サイマルラジオなどインターネットを使って放送するという新しいスタイルも確立されているので、地域限定なコミュニティ FM もグローバルにつながる事が可能です。

## ◆具体化に向けて

実は、ある大学で寮の改装に伴ってスタジオ用のスペースが確保できる可能性も見えています。早田さん達が考えているのは、アンテナを市役所屋上に据え、駅前もしくは商店街にサテライトスタジオを設け、その大学の 3 地点を結ぶ構想です。

とはいえ先立つモノは資金です。エリアが市区町村とはいえ、約 3,500 万円とも言われる設立費用、それを市や大学・企業などのスポンサーや市民からの出資で工面しなければなりません。都内初のコミュニティ FM である FM むさしのは、武蔵野市が一部出資する第三セクター方式ですし、調布 FM は株式会社ですが副市長も取締役となっています。小平でも行政の後押しが欲しいところです。

今後、4 月の開局申請に向けて動き出す“まちのみんなの” FM 放送局に大いに期待したいと思います。

（取材：伊藤、田原 文責：田原）

